

令和4年度（2022年度）

運営に関する計画

（最終評価）

大阪市立敷津浦小学校

令和5年3月

大阪市立敷津浦小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の課題としては、豊かな人権感覚を身に付けさせると共に、「基礎・基本的な学力の定着と向上」「基本的な生活習慣の育成」「教師の指導力の向上」があげられる。

「基礎・基本的な学力の定着と向上」については、普段の授業による教科指導だけでなく、家庭での学習の充実等も含めた教育活動全体の取り組みを通して、基礎・基本の定着と学ぼうとする意欲(学習意欲)を向上させていくことが大きな課題である。また、若手教員が多い現状からも「教師の指導力の向上」が喫緊の課題である。人権教育を柱とした本校の特色ある取り組みを継承・発展させるとともに、教科・領域等での基本的な指導力の向上を図り、児童が「わかりやすい」「楽しい」と思えるよう、指導力の向上に取り組んでいかなければならない。

「基本的な生活習慣の育成」については、自立した生活態度につなげていくことから児童への指導と共に、保護者への働きかけも行っていく必要がある。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ・毎年度末の校内調査において不登校の児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。
(前年度 1.1% **今年度 1.1%**)
(施策1 安全・安心な教育環境の実現)
- ・令和7年度の校内アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の70%以上にする。**(今年度 85%)** (施策2 豊かな心の育成)
- ・令和7年度の校内アンケートにおいて「すすんであいさつをしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の85%以上にする。(前年度 83% **今年度 89%**) (施策2 豊かな心の育成)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の校内アンケートで「学習に進んで取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の90%以上にする。(前年度 87% **今年度 90%**)
(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)
- ・令和7年度の行内アンケートにおける「話し合い活動を頑張っている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の87%以上にする。(前年度 84% **今年度 89%**)
(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)
- ・令和7年度末の校内アンケートにおける「体育の学習は楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の93%以上にする。(前年度 90% **今年度 96%**) (施策5 健やかな体の育成)
- ・令和7年度末の校内アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の93%以上にする。(前年度 89% **今年度 94%**)
(施策5 健やかな体の育成)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度の校内アンケートにおける「学習端末を使って自分で学習することができる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の90%以上にする。**(今年度 93%)**
(施策6 教育D X(デジタルトランスフォーメーション)の推進)
- ・令和7年度の校内アンケートにおける「読書が好き」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の88%以上にする。(前年度 83% **今年度 87%**) (施策8 生涯学習の支援)

年度目標

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・令和4年度末の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を78%以上にする。（前年度75% **今年度77%**）
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。（前年度1.1% **今年度1.1%**）
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ・令和4年度の校内アンケートにおいて、「学校に行くのは楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を88%以上にする。（前年86% **今年度92%**）
- ・令和4年度の人権デーの実施アンケートにおいて「よく考えた」と答える児童の割合を82%以上にする。（前年度82% **今年度83%**）
- ・令和4年度の校内アンケートにおいて、「すすんであいさつをしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。（前年度83% **今年度89%**）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・令和4年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合30%以上にする。（前年度29% **今年度34%**）
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一の母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。
- ・令和4年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を79%以上にする。（前年度77% **今年度78%**）
- ・令和4年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を60%以上にする。（前年度62% **今年度68%**）

学校園の年度目標

- ・令和4年度の校内アンケートにおける「学校の勉強がよくわかる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を92%以上にする。（前年度92% **今年度92%**）
- ・令和4年度の校内アンケートにおける「学習に進んで取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を89%以上にする。（前年度87% **今年度90%**）
- ・令和4年度末の校内アンケートにおける「体育の学習が楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。（前年度90% **今年度96%**）
- ・令和4年度末の校内アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。（前年度89% **今年度94%**）

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・デジタル教材を使った自主学習を週3回以上する。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の労働時間に関する基準1(1ヶ月の時間外労働が45時間以内)を満たす教員の割合55%以上にする。（前年度50% **今年度50%**）

学校園の年度目標

- ・令和4年度の校内アンケートにおける「学習端末を使って自分で学習することができる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の85%以上にする。（**今年度93%**）
(施策6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進)
- ・令和4年度の校内アンケートにおける「読書が好き」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の85%以上にする。（前年度83% **今年度85%**）
(施策8 生涯学習の支援)

年度目標	達成 状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和４年度末の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 78%以上にする。 (前年度 75% <u>今年度 77%</u>) 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(前年度 1.1% <u>今年度 1.1%</u>) 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善割合を増加させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和４年度の校内アンケートにおいて、「学校に行くのは楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 88%以上にする。(前年度 86% <u>今年度 92%</u>) 令和４年度の人権デーの実施アンケートにおいて「よく考えた」と答える児童の割合を 82%以上にする。(前年 82% <u>今年度 83%</u>) 令和４年度の校内アンケートにおいて、「すすんであいさつをしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 85%以上にする。(前年度 83% <u>今年度 89%</u>) 	B

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【施策 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめや問題行動の未然防止に努め、いじめの早期発見、早期解決に取り組む。 いじめや問題行動等が生じた際、生活指導報告書を作成し、全職員で共通理解を図る。 毎月、各学年で児童の様子を記録した文書を作成し、生活指導部を中心に全職員で共通理解を図る。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートを学期に 1 回以上実施し、認知したいじめをすべて解消する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>計画通りにいじめアンケートを学期に 1 回以上実施することでいじめの早期発見につなげることができた。そして、認知したいじめ事案については教職員で共有し、複数の教職員で対応することができた。また、本アンケートで認知したいじめ事案を解消するための取り組みができた。</p>	
これからの改善点	
<p>今後、いじめが起きたときの聞き取り方や教職員への共有の在り方を見直し、該当学年だけでなく、全教職員が共通理解できるようにする。そのためにも、報告・連絡・相談・記録を確実に行うようにしていく。また、いじめアンケートに書かれていないいじめ事案もある。そのため、日常的に子どもの様子を観察したり、子どもが相談しやすい雰囲気作りをしたりする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容②【施策2 豊かな心の育成】 ・人権教育を推進し、児童や教職員の人権感覚の育成、向上を図る。 ・人権デーを学期に1回実施する。実施後には振り返りや共通理解を図り、児童の互いを大切にしていこうとする態度を養う。	B
指標 ・人権デーの実施アンケートにおいて「よく考えた」と答える児童の割合を82%以上にする。 (前年度 82% <u>今年度 83%</u>)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
児童の人権感覚の育成を図るため、多様な人との「であい」を大切にした出前授業や講演会を実施することができた。また、人権デー実施の児童アンケートにおいて、「よく考えた」と答える児童は83%となり、目標を達成している。実施するにあたって、子どもの実態を見つめ直し、教材や資料の充実に努めることや、何度も話し合うことが教職員の人権意識の向上にもつながっている。	
これからの改善点	
教職員自らが研修等に参加することで差別意識をふり取り、自分自身の問題として考えていくという自覚を高めていく必要がある。さらに、教職員が児童と共に学ぶ姿勢を持ち、引き続き児童の「差別を見抜く力」を養っていく。	

<p>評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった</p>	<p>B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった</p>
---	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容③【施策 2 豊かな心の育成】 ・運営委員会を中心に学期に 1 回以上あいさつ週間を実施し、朝会や集会、ポスターなどで啓発する。 ・児童のあいさつの意識を高めるために、年間 16 回以上、各学級であいさつデーを実施する。	B
指標 ・校内アンケートにおける「すすんで挨拶をすることができますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 85 %以上にする。(前年度 83% <u>今年度 89%</u>)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
運営委員会を中心として、学期に 1 回あいさつ週間を実施できた。あいさつ週間では、1 年間のあいさつのスローガンを決め、玄関に掲示したり、あいさつの木を作成したりし、運営委員会だけでなく、学校全体であいさつに取り組めるようになっている。 2 学期以降はあいさつデーを 16 回実施できた。 以上の取り組みの結果、校内アンケートにおける「すすんで挨拶をすることができますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は 85 %を超えている。しかし、学年外や外部の方へのあいさつが少ないように感じられる。	
これからの改善点	
あいさつ週間やあいさつデーの取り組みから、積極的にあいさつができている様子が見られるが、学年外や外部の方へのあいさつは少ないように感じられる。そのため、教職員が普段から積極的にあいさつをし、すすんであいさつができる雰囲気づくりをしていく。また、上記の取り組みは今年度から始めたものが多く、今後も継続して取り組んでいく必要があり、あいさつの木に関しては、季節ごとに花の形を変えるなど、児童の意欲をあげられるように工夫していく。	

年度目標	達成 状況
<div>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</div> <div>全市共通目標（小・中学校）</div> <div><div><div>・令和4年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合30%以上にする。（前年度29% 今年度34%）</div><div>・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一の母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。</div><div>・令和4年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を79%以上にする。（前年度77% 今年度78%）</div><div>・令和4年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を60%以上にする。 (前年度62% 今年度68%)</div></div><div>学校園の年度目標</div><div><div>・令和4年度の校内アンケートにおける「学校の勉強がよくわかる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を92%以上にする。（前年度92% 今年度92%）</div><div>・令和4年度の校内アンケートにおける「学習に進んで取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を88%以上にする。（前年度87% 今年度90%）</div><div>・令和4年度末の校内アンケートにおける「体育の学習が楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。（前年度90% 今年度96%）</div><div>・令和4年度末の校内アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。（前年度89% 今年度94%）</div></div></div>	B

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<div>取組内容①【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】</div> <div><div>・朝や昼の学習の時間に、漢字タイム・音読タイムを設け、文章を読み取る力をつけることができるようにする。</div><div>・教室に声の大きさや接続詞の掲示などを常掲し、児童が日常的に意識して使えるように指導する。</div><div>・話し合い活動に関する指導計画に基づき、6年間で系統立てた指導を行っていく。</div></div> <div>指標</div> <div><div>・校内アンケートにおける「学習に進んで取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を88%以上にする。（前年度87% 今年度90%）</div></div>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>朝や昼の学習の時間を有効的に活用することで、文章を読み取る基礎の力を培うことができてきている。また、普段の授業や研究授業等で、ペアやグループでの話し合い活動を取り入れることで、児童の理解が深まり、学習に向かう姿勢も変化してきている。指標の項目も89%となり、前年度より2%向上している。</p>	
これからの改善点	
<p>さらに学習に進んで取り組むことができるよう、児童自身が「わかった」「できた」と達成感を感じられるような授業改善を行っていく。話し合い活動は今後も継続していき、児童どうしがお互いに学びを深めていけるようにする。また、児童の学習のようすを細かく見ていき、課題やつまずきに対応していくことで、安心して学習に取り組む環境をつくることができるようにしていく。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容②【施策5 健やかな体の育成】 ・「体づくり運動」などを実施し、児童が体育を楽しんでいると感じる場を設定する。 ・校内で「体育の動きの特性」について研修会を年間2回以上実施する。 ・「かけあし週間」や「なわとび週間」などを実施し、学習カードを活用することで児童の学習意欲を高められるようにする。	B
指標 ・校内アンケートにおける「体育の授業が楽しい」の項目について肯定的な回答を90%以上にする。 (前年度 90% <u>今年度 96%</u>)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
日々の体育の学習において、「体づくり運動」を学習に取り入れたことで、児童は楽しみながら体育の学習に参加することができた。また、かけあし週間やなわとび週間では、学習カードを活用したことで児童の意欲を高めることができた。	
これからの改善点	
引き続き、体育の学習については、児童が楽しいと感じる場を設定した取り組みを工夫していく。 また、研修会を継続して行い、教職員が体育の授業についての知識を深め、今後も児童が「体育の授業が楽しい」と思えるような指導に取り組んでいく。 かけあし週間やなわとび週間の前後では児童の一定量の運動量が確保できたが、年間を通してはできていないことから、1年を通して体力の向上が行える計画が必要である。	

<p>評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった</p>	<p>B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった</p>
---	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容③【施策5 健やかな体の育成】 ・児童がハンカチを身につけ、手洗い・うがいの後に手をふく習慣をつけることができるよう指導を行う。 ・週に1回、保健委員会が各学級をまわり、ハンカチ・ティッシュを身につけているかチェックを行う。	B
指標 ・校内アンケートで「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目について、肯定的な回答を90%以上にする。(前年度 89% <u>今年度 94%</u>)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
最終の校内アンケートで「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目が94%だったので指標を達成した。保健委員会による2月2週目(2/8)の保健調べでは、「ハンカチ・ティッシュを身につけている」のチェック項目において全校児童の90%が達成できた。保健委員会が毎週各学級でチェックを続けたので、担任は学級の実態が把握しやすく児童へ個別に声かけすることができた。しかし「手洗いうがい」「ハンカチ・ティッシュの携行」について声かけをこまめにしないと自発的にはできていないため習慣化までは至っていない。	
これからの改善点	

今後、さらに手洗いうがいを徹底できるような取り組みを検討し実施していく。また、ハンカチ・ティッシュを身につける意識が高まっているので、今後も保健委員会の保健調べを継続していく。

年度目標	進捗状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教材を使った自主学習を週3回以上する。 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の労働時間に関する基準1（1ヶ月の時間外労働が45時間以内）を満たす教員の割合55%以上にする。（前年度50% 今年度50%） <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の校内アンケートにおける「学習端末を使って自分で学習することができる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の85%以上にする。 （今年度93%） （施策6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進） 令和4年度の校内アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体85%以上にする。（前年83% 今年度87%） （施策8 生涯学習の支援） 	A

<p>評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった</p>	<p>B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった</p>
---	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策6 教育D X (デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ・子ども達が、デジタル教材や協働学習支援ツールを用いた学習を週3回以上実施する。 ・デジタル教科書を積極的に活用することで学習効果を高める。 ・学校や学級が休業になっても Teams を活用して学習できる環境整備を行う。	A
指標 ・校内アンケートにおける「学習端末を使って自分で学習することができる」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。 (今年度 93%)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
校内アンケートにおける「学習端末を使って自分で学習することができる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合が93%と目標を達成することができた。これらは、デジタル教科書や協働学習支援ツールを積極的に活用できた結果である。また、学級休業中でも Teams やデジタルドリルを使用し、学びの支援を行うことができ、ICT を日常的に活用できる環境が整いつつある。	
これからの改善点	
今後も学習者用端末の効果的な活用方法を検証し、個別最適な学びの実現に生かしていく。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗 状況
<div>取組内容②【施策 8 生涯学習の支援】</div> <div><div>・子ども達が、様々なジャンルの本に読書の幅を広げられるように、学校司書等の人材と協働しながら図書館の本の配置を工夫し、環境整備を行う。</div><div>・各学年ごとの図書館活用年間計画をもとに、図書館での調べ学習や並行読書などを取り入れた読書活動を充実させる。</div><div>・読書ノートの使い方を工夫して、児童の読書意欲を高める。</div></div>		A
<div>指標</div> <div><div>・校内アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について肯定的回答の割合を 85%以上にする。</div><div>(前年度 83% 今年度 87%)</div></div>		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>学校司書・ボランティア・はぐくみネット等と協働しながら、図書館開館日を週 2 日に増やしたり、図書館の本の配置を工夫したりするなどの環境整備を行ってきた。また、読書活動を充実させる取り組みとして、住之江図書館の集団貸し出し、読み聞かせ、ブックトーク、多読者への表彰などの取り組みを実施してきた。</div> <div>その結果、関連本の並行読書や調べ学習に取り組みやすい図書館になりつつあり、校内アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合が 87%と目標を達成することができた。また、読書ノートの達成者が大きく増加するなど、児童の読書意欲が高まったといえる。</div>		
これからの改善点		
<div>今年度の取り組みを、次年度も継続していく。そのうえで、児童の読書意欲を喚起できるような学級・学年単位の取り組みの工夫、学校全体の取り組みの開発をしていくことで、読書の好きな児童がさらに増えていくと考える。今年度の取り組みを引き継ぎ、さらに調べ学習や並行読書などを充実させるために、来年度に向けて、図書館活用年間計画を更新する。</div>		

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった